

RO  
RO  
P  
A  
S

# さっぽろ 東本願寺



No,238

2025 1月号

新年のご挨拶	01
行事報告	02
今月のことば	03
お寺さんに聞いてみよう	04
門徒のおしごと	05
ひがほんっ子だより	06
法話 島村 宣澄	07,08
無盡蔵	09
連載 近代の教学者	10
すすきの探訪ツアー	11
共生	12
おしらせ	13,14

# 新年のご挨拶

## 新しい年を迎えて

2025年を迎え、皆様方におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。平素より札幌別院の崇敬護持には絶大なご支援、お力添えを頂戴しておりますこと甚深の謝意を申し上げ、開法精進の趣、心より敬意を表すこととあります。

昨年は元旦の能登地方の地震に始まり、水害等も発生して自然の恐怖と気候変動による弊害の現実を見せつけられ、自然のもたらす恩恵には若干、無感覚無関心になったようにも思います。

世界中の人々が間違いない、ささやかな幸せと平和な暮らしを望んでいるにもかかわらず、地域紛争から国家間の戦争は絶えないのは一体なぜなのでしょう。一方、大谷フイーバーに明け暮れた1年、パリオリンピックの変貌に驚き、移り変わる現実に翻弄されながら、生死流転の身を生きていることも忘却してしまったのでしょうか。

「生きるって疲れることよ、絶望だらけ。だから希望を探すのよ！（もろさわようこ）」



輪番 坂田智亮

すべての人々が希望の持てる人生を選択できているのでしょうか。

別院では真実の教えを拠り所として生きる「人」の発掘に余念なく、あらゆる教化計画を推進しています。その成果は充分とは言えませんが、比べず慌てず焦らず諦めずゆっくりと一歩一歩確実に進めていきたい、別院に足を運んで頂きたい、そして皆様方とともに本願念仏のいわれを聞き続けていきたいと思えます。今年もどうぞよろしく願います。

# 御正忌（祖徳讃仰のつどい）報告

11月27日・28日に宗祖親鸞聖人御正忌法要が勤まり、吉田法純氏（恵庭市島松寺）に法話を頂いた。

27日の法要後には、大谷ホールに会場を移して札幌別院推進会主催による祖徳讃仰のつどいが開催され40人が参加した。今回は西尾順子フラスタジオに出演いただき、フラダンスの鑑賞会「フラショー」を行った。

ハワイの植物や海、空を表わした明るく鮮やかなフラドレスを着たスタジオの皆さんはハワイアンミュージックに合わせて、穏やかに降り注ぐ雨の様子など、ハワイの自然やそこに生きる人々の感情を全身に表現したダンスを披露した。

鑑賞者からは「まるでハワイに居るかのような心地」との感想も聞こえてきた。また、会の序盤にはフラダンスの体験時間があり、西尾さんの教える緩やかなフラの踊りに、来場者は少々汗ばむくらいに体がほぐされ、フラの表現を体験できた「フラショー」だった。



# 職員研修旅行報告

昨年12月から3班に分かれて長崎県を中心とした九州北部への職員研修旅行が行われた。

第1班は原子爆弾災死者取骨所がある長崎教会を訪問し、遺骨を収蔵することになった経緯や、境内に建つ「非核非戦」の石碑に込められた願いなどをお話しいただいた。その後、長崎原爆資料館も見学し、案内員に展示された資料の説明を聞きながら、戦争の悲惨さや原爆の恐ろしさを改めて認識した。

また大浦天主堂と日本二十六聖人記念館も見学し、キリスト教禁教令によってキリスト教徒が弾圧された歴史を知り、信教の自由が保障されることの大切さを学んだ。

佐賀県では吉野ヶ里遺跡を訪問し、弥生時代の生活の様子や、出土した埋葬品から考えられる当時の死生観などについての知見を得た。



「非核非戦」の碑にて



原爆資料館での様子

# 業が沸く



私の実家である播州地方では腹が立った時に「ごうわく（業が沸く）」と言う。知らない人が聞いたら少し汚く怖い言葉に聞こえるようだ。しかしこの言葉は仏教用語の宿業から生まれたものだと教えてもらったことがある。

まだ若い頃、長男である兄は「報恩講で集まる法中さんの会話を聞いているとごうわく」と言って、社会科系の教諭一本の道を選び、住職になることを辞めた。

教諭を目指していた兄は年配の住職たちが話す他人の噂話や建設的ではない話にうんざりして腹が立ったのだろう。僧侶を目指している私は特に腹が立つことは無かった。兄弟であってもそれぞれ宿業（生き方や考え方）が違うため同じ事柄でも感情は様々だ。しかし腹が立つ感情は業が沸くというように沸いてくる心だから止めようがない。

親鸞聖人は「そくばくの業をもちける身にてありけるを、たすけんとおぼしめしたちける本願のかたじけなさよ」（『歎異抄』）と御述懐されている。人類始まって以来、「そくばく（たくさん）の業」を背負って生きる我々は縁のもよおしによっていかなる振る舞いをもする身である。そのような様々な業に縛られて生きる我々のすべてを見通して、弥陀如来はそのままの身をまるごと救う願いを起こして下さっている「本願のかたじけなさ」である。

「ごうわく」とは別の言葉で腹が立ってしまった時に「ごうがわいてしもた（業が沸いてきてしまった）」と自分自身を客観的に受け止め、その感情を反省する言葉もある。これは弥陀の本願に育まれ、我々の在り方を知らされ続けてきて生まれた言葉にも感じる。

関 逸也

# お寺さんに

# 聞いてみよう!

## 帰敬式?



死んだ後、子どもに迷惑をかけたくないから生前に法名を頂きたいのですが、その為には帰敬式を受ける必要があると聞きました。

帰敬式とは何ですか。

## A.

帰敬式とは、お釈迦様の弟子として、仏の教えを聞き、人間としての在り方・生き方を問い、学んでいこうとする「仏道を歩む者」となる儀式です。別名おかみそりと言いますが、ご門徒の皆様におかれましては実際に剃髪するという事はございませんので、その点は安心して下さい。

帰敬式の由来はお釈迦様が29歳の時に、これまでの俗世の生活を捨て、出家された事に始まります。宗祖親鸞聖人も9歳の春の頃に仏門を叩き、おかみそりを受けております。私たち僧侶も皆、「得度式」という僧侶としての第一歩の儀式を受式する際におかみそりを受けております。帰敬式を受式するという事はお釈迦様の弟子となる事であり、その名乗りである「釋〇〇」という法名を頂きます。

冒頭の話に戻りますが、法名は死後に頂くもの或いは自らの死去の準備の為という世俗の認識がありますが、本来は仏道を歩む者の名乗りとして生前に頂くものであります。仏道を歩む者として、



仏・法・僧の三宝を敬い、仏道の手を学び生きて行きますという意思表示であるという事です。真宗門徒として帰敬式の正しい意義を学び、是非受式下さいますよう、ご案内させていただきます。

末尾になりましたが、札幌別院に於いても帰敬式を執り行っておりますし、お手次のお寺がある方はそちらでも受式する事ができますので、是非お寺さんに聞いてみてください。

# 和 置田佛具店

## 門徒のおしごとく置田仏具店



店内には仏壇修復の作業場が併設されており、実際に作業されている姿も見る事ができる。



線香やロウソク、お数珠など仏事に必要なものは何でも揃います。



店主の大野さん

**置田仏具店**



札幌市中央区南7条西8丁目1-25

営業時間 9時～17時

定休日 日曜、祝日

TEL 011-512-4268

別院の鐘の音を聞いて94年。札幌別院の門前に店を構える置田仏具店は、現在3代目の大野正人さんが店主を勤める。京都の箔押師 涌田氏の下で修行し、箔押し・彩色の技術を活かして仏壇修理や寺院内装設計施工を行っている。最近はずいぶん事情から、より小さなお仏壇に替える家庭が多くなった。日本家屋から洋室が中心の現代的な家づくりによる仏間の減少。介護施設では蝋燭や線香の火はもちらん、音が鳴る仏具も禁止されているところが増えているという。

置田仏具店では10年程前から仏壇のリメイクを手掛けており、相談に来るお客さんが後を絶たない。大野さんはお客さんの話に耳を傾け、その家にあった新しいカタチを提案している。「伝統的な金仏壇の一部を残し、小さな家具調型仏壇にするリメイクも手掛けています。皆様の要望を加味しつつ設計しますが、御本尊の周りには須弥壇などは積極的に残して製作していきます。単に簡略化するのではなく、どこまでも生活の中心に御本尊があつて欲しいですね。ご相談があればいつでもお任せください」と語る。お仏壇で悩んでいる方は、フラットと立ち寄ってみては。



## ボーイスカウト



### 陶芸体験と同年末集会

11月24日、ボーイスカウト札幌第9団は毎年恒例の陶芸講習会を多田陶芸工房で体験しました。今年の参加者はビーバー隊3名、カブ隊5名、ボーイ隊3名、ローバード隊1名、その他保護者や幼児を合わせて20名の大人数の体験集会になりました。陶芸体験は今年で7年目になりますが、当初は6〜7名で始まった体験集会は年々参加者が増えてきています。



参加された方々はそれぞれにお皿・コップ・茶碗・花瓶・動物の置物などを作り、沢山の楽しく良い作品ができました。これらの作品は工房の多田先生が乾燥し、各々が選んだ色を焼付塗装し、年末集会に届けられる予定になっているので、みんな楽しみにしています。



その団合同年未集会は12月22日に大谷ホールで餅つき・ゲーム大会を行います。その後はつきたてのお餅の雑煮で会食して今年最後の集会を締めくくる予定です。

ボーイスカウト札幌第9団

カブ隊隊長 羽石勝治



第1話

### はじめまして



# 法話

## 念仏者にひらかれた大地

今回、「念仏者にひらかれた大地」という講題を出させていただきました。長崎で被爆された永井隆先生は「どん底に大地あり」という言葉を残されています。また、高史明先生は「足の裏の声を聞いて」と仰いました。私たちのほからいを超えて私たちを支え続けてくれているのが大地です。ところが、私たちはそういう大切な事を生活の中でいつしか忘れていってしまう。しかし、そんな私たちの在り方それ自体を問うてくださる人々や言葉に出遇うということがあります。お念仏という言葉は使っていないくとも親鸞聖人の教えをしつかりと語る言葉です。

### この世を見るため、聞くために生まれてきた

2015年の映画で樹木希林さんが主演された『あん』という映画があります。この映画はどら焼き屋の店主とお店の常連の女の子、そして樹木希林さん演じるおばあちゃんを中心にお話が進みます。あん作りの名人であるおばあちゃんはどら焼き屋を助け繁盛させるのですが、いつしか元ハンセン病患者者であるという噂が広まり客足が遠のいてしまい、それを知ったおばあちゃんは店に姿を見せなくなってしまう。そこで店主と女の子は話を聞かなければとおばあちゃんを訪ねます。そこで「よく来てくださった」と二人を迎えた樹木希林さんの「私た

ちはこの世を見るために、聞くために生まれてきた。だとすれば、何かになれなくても私たちには生きる意味があるのよ」という台詞が鮮明に焼き付いています。

これは普段から私たちが聞いている教えの言葉でしょう。今私たちが足を置いているこの濁りの世。思い通りにならないことも沢山で今生まれてくる子もいれば一方で餓死や戦争で命奪われる子もいる。これを見る為に生まれてくる。そして聞く、これは聴聞です。わが身、自己の事を聞くために生まれてくる。そのために生まれてきたのだとすれば、何になれなくとも生きる意味がある。これはおそらくハンセン病で隔離されて家族も人生も失った想像を絶する人生を歩んでこられた中で、役に立つとか立たないとかそういうことから解放された言葉なのでしょう。

私たちが教えを通してこの世を見るとき、あまりにも身勝手にもものを見ていることに気が付きます。善悪、損得、長短など対比してどちらか都合の良い方を選ぶことが賢いと考えてきました。賢者の道と愚者の道があるとするれば、私たちの人生は小さなころから賢者の道を邁進してきたのでしょうか。人に劣ってはいかん。人に迷惑をかけたらいかんという言葉が説得力



を持ちそれを自分で鵜呑みにしていませんか。ご年配の方に今の望みは何ですかと聞くと人に迷惑を掛けずに人生終えていきたいと言いますが、私に言わせればそんなのは大迷惑ですね。

## 価値観から解放されていく道

本当は生きるということは迷惑をかける事なのだと思います。もう亡くなりましたが、毎日お寺に来るおばあちゃんがおりました。お嫁さんの体が弱かったのでおばあちゃんが頑張って3人の孫を立派に育て上げました。そしてお孫さん方から敬老の日に一週間おばあちゃんを招待したいと言われたら、喜んで出かけたのですが、3日目に帰ってきましてしまいました。理由を尋ねるとひ孫から「ばあちゃんいつ帰つと？」と言われ、自分の正体はと分かったので「ありがとな、こげなもんがお世話になったの」と言って帰ってきたと言っています。

いくら一生懸命孫を育てたとしても、普段生活を共にしていないひ孫からしたらおばあちゃんは異物ですね。もしおばあちゃんが賢者の道を生きていれば許せなかったことでしょう。苦労してお前たちを育ててきたのにという思いは賢者の心です。しかし「ありがとう」と言って2日ばかりで帰ってきた。愚者の姿を見せてくれたのです。



島村宣澄（しまむらせんちょう）

福岡県浄慈寺

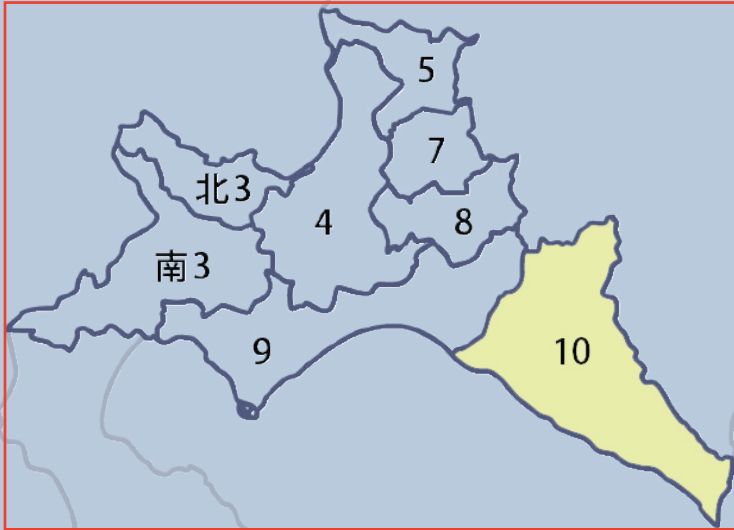
本稿は2024年10月の報恩講の法話要旨です。

「愚者になりて往生す」というのが親鸞聖人が教えて下さることです。輝く言葉でしょう。賢者とは裁く人です。そういう私たちの在り方をこういう人を通して教えて頂くのです。

親鸞聖人は「悲願は：なご大地のごとし」と仰います。仏様の悲願が大地になって下さっている。私たちはどこまでも仏様に悲しまれている存在です。より積極的には「悲願」は「怒願」であると私は思います。仏の怒りと悲しみによって私たちの邪見を焼き尽くし、それを繰り返していくしかないのです。それが樹木希林さんの言う「この世に聞くために生まれてきた」ということです。だとすれば何になれなくても、この後の人生でどんな様相を露呈しようが、生きている意味があります。自分の中の善悪とか損得とかの価値観から解放されていく道があるのだということ仰っているのです。

# 無盡蔵

崇敬区だより



## 第10組慶讃法要厳修

〜南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう〜

2024（令和6）年5月31日、新ひだか町静内の浄運寺本堂にて、第10組宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年の慶讃法要が執り行われた。組内11ヶ寺のご門徒で満堂の中宗祖の慶讃法要を迎えた。法要では組長の手捲公俊氏（浄運寺住職）により登高座、表白が述べられ、経中には起立散華により花びらが内陣を舞った。その後ご門徒と共に正信偈をお勤めした。記念布教使には北海道教区駐在教導の齋嶺彰宏師をお招きし、『南無阿弥陀仏人と

生まれたことの意味をたずねていこう』の慶讃テーマを中心にご法話いただいた。聴聞されていたご門徒も紙芝居を使ってのお話には皆笑いも交えながら聴き入っていた様子であった。日程終了後は第10組慶讃法要記念品の赤本と散華をお土産にご門徒一同帰路に就いた。

近年の新型コロナウイルスなどの感染症の脅威、気候変動による自然災害など先の見えない時代を生きている。日高管内でも現に当たり前のように自然の恵みを頂いていた海の幸も温暖化により数年前には赤潮の発生でウニやツブなどの貝類が全滅。海水温の上昇で昆布も抜け、鮭に至っては毎年のように歴史的不漁に見舞われており、その様な状況にあるご門徒たちと今を生きている。

「この法要の喜び、この出会いの喜びが、一切世界の衆生に届き、南無阿弥陀仏の声が、どこまでも響きわたりますように」と、ご門徒と一緒に自らにとって宗祖の立教開宗の意味をたずね、本願念仏の教えをいただくかけがえのない大切な「時」と「場」を得ることのできた組の慶讃法要であった。



第10組

智教寺 高塚法章

## 近代教学の祖（前編）

### 清沢 満之

清沢満之は明治期に活躍した僧侶であり、宗教哲学者である。真宗大谷派における近代教学とは満之の出現以降を指す言葉であり、彼の功績なくして現代における真宗教学の発展はありえなかった。

#### 秀才として名を馳せた少年期

1863(文久3)年、名古屋黒門町に生まれた満之は幼少より勉学に励み、12歳で入学した愛知外国語学校では英国人の教授が演説に行く時の通訳として同行したほどの秀才として知られた。

#### 学びの場を求め仏門へ

また、1878(明治11)年、近所の覚音寺から勧めがあり、得度をして、宗門が新設した東本願寺育英教校に入学した。そこでも満之は一番優秀であったと言われる。同校の廃校を機に優秀者を東京へ派遣することになり、東京大学予備門第二級生の編入試験を受け、短い準備期間の中1位で合格した。

#### 宗教界への参画

東京大学文学部哲学科に入学した満之は常に首席の成績を収め、そのまま大学院に進んだ。その傍ら哲学館において純正哲学、心理学などの講義をした。他分野への関心も多くあった中、本山の給費で勉強が出来る事への恩を尽くす活動であった。

#### 生涯唯一の華やかな生活

1888(明治21)年、満之は宗門が運営を委託されていた京都府立尋常中学校の校長に就任した。同年には大浜の西方寺の娘である清沢ヤスと結婚もしている。当時としては破格の百円という高給を取り、山高帽にフロックコート、ステッキに西洋タバコをくゆらせ、迎えの人力車で通勤するなど、華やかな生活を送った。

#### 生活実験「ミニマム・ポッシブル」

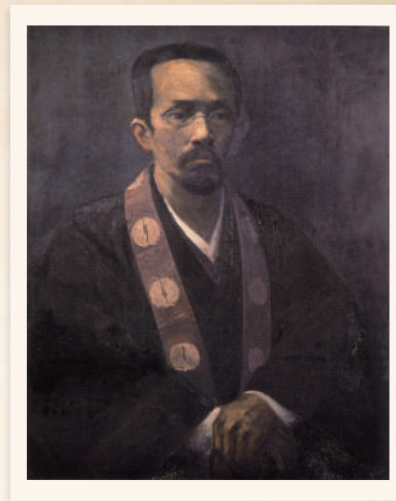
しかし、宗門との関わりを深めていく中で思うところがあり、校長職を降りると生活を一変させた。「ミニマム・ポッシブル」といわれる禁欲生活である。妻子を郷に帰し、頭を丸め、黒衣墨袈裟で過ごした。母との死別を境にその生活は激化し、煮炊きをやめ、酒はおろか茶も飲まず、そば粉を水で混ぜた物や、松ヤニを舐めて生活した。

痩せこけた自身を骸骨と号し、『宗教哲学骸骨』を執筆した。

(続)

#### 清沢 満之 (1863～1903)

尾張国名古屋(現・愛知県名古屋市)生まれ  
真宗大谷派(本山・東本願寺)の僧侶、哲学者・宗教家  
旧姓は「徳永」。幼名は「満之助」  
院号法名は、「信力院釋現誠」  
真宗大学(現・大谷大学)の初代学監(学長)



清沢満之肖像画(大谷大学より提供)



著 / 教区駐在教導・宇都宮 力



# すすきの探訪ツアー

豊川稲荷の南向いの通りに、白壁に木材のコントラストが美しいハーフティンバー様式の建物がある。かつて薄野No.1を誇っていた伝説の高級クラブ「チカル」だ。医師であり札幌を代表する小説家・渡辺淳一は「北都物語」で舞台とするほどに、この店を気に入っていた。

座っただけでも3万円はするという銀座並みの店には、文豪や画家、俳優や政治家などが集い、南7条通りで妖艶な輝きを放っていた。

チカルが開業した頃は、昭和33年に完全施行された売春防止法の影響で全国の遊郭が廃止となり、娼婦たちは廓から解き放たれた。ところが、多くの者は郷里に帰ることが出来ず、繁華街を渡り歩くうちに消息は絶たれていった。



売防法の施行が始まり、ここ薄野で急増したのが新たな飲食店の申請と火災だった。

木造建築が密集した薄野では、一度火の手が上がると忽ち辺り一帯も類焼する。ぽっかりと口を開けた焼野原の跡には、瞬く間にビルが建ちあがり、新たな店が産声を上げた。

薄野では、火災が起こるたびに、「鼠が出た！」という噂が流れるようになった。立退きに応じないと、地上げ屋が、油に浸した鼠に火をつけて放ったという話したが、今となっては、真相を知る術もない。

その頃に開店した店の数は1年間で約200軒。2～3日に1軒は開店した計算となる。「誰にも雇われず、一国一城の主となる。」そうした夢の灯が、赤灯籠から無数のネオンが輝く歓楽街へと姿を変えていった。

そうしたビルの一角とは、一線を画していたのがチカルだった。ヨーロッパ調の威厳ある建物からは、高級クラブのママさんが輩出されたが、開店から42年後の平成13年に、その幕を閉じたのであった。



著 / 民衆史研究家 石川圭子



# 共生

アイヌ民族文化財団

理事長 **常本 照樹**



アイヌ民族文化財団には約200人の職員が（うち160人がウポポイに）おり、多くのお客様にアイヌ文化に触れていただき、その魅力と、異なった文化を持つ人々が共生する社会の豊かさを理解していただけるよう、日々研鑽に努めています。各地でアイヌ文化を伝承している方々に歌や踊り、工芸などを教えていただいたり、博物館での展示の裏付けとなる研究をしたりなど、みな余念がありません。

その一環として、昨年から海外の博物館などの類似施設における研修を行っています。先住民族の文化の伝承や発信に長い経験を持つ諸外国の施設を訪問し、様々な工夫を見たり、共通の関心事について意見交換を行うことが目的ですが、自分たちが「客」の立場になって、どうすれば「伝える」のかを考えるなど、日頃違う場所で働いていて交流の機会が乏しい職員たちが、「同じ釜の飯」を食べることで仲間意識を高めることも目的の一つです。

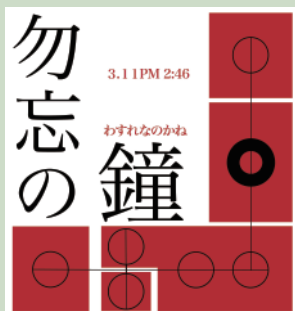


昨年は、カナダ、ニュージーランド、ハワイ、台湾を訪問し、今年は、10月下旬にアメリカのオクラホマ州に行ってきました。今回と次回はそのお話を少ししてみたいと思います。オクラホマはアメリカのほぼ中央部にあり、白人開拓者たちに土地を明け渡すため、19世紀にアメリカ全土、とりわけ南東部から先住民諸部族が移住させられた土地です。オクラホマはチョクトー語で赤い（オクラ）人（ホマ）を意味します。現在、州内にはチェロキー、シャイアンなど39の先住民部族が居住しており、カリフォルニア州に次ぐ先住民人口を有しています。私たちは総勢13人で、羽田から半日かけてテキサス州ダラスまで飛び、さらに1時間半飛んでオクラホマに到着しました。

# 年間行事表 1~3月

1月		2月		3月	
1日(水)	山鼻支院婦人会定例 休会	1日(土)	山鼻支院婦人会定例 13:00~ 坂田智亮(札幌別院輪番)	1日(土)	山鼻支院婦人会定例 13:00~ 宮本尊文(札幌市 顯淨寺)
2日(木)	札幌婦人会定例法座 休会	2日(日)	札幌婦人会定例 13:00~ 研修室 佐々木強(札幌市 栄光寺)	2日(日)	札幌婦人会定例 13:00~ 研修室 出雲路修一(苫小牧市 陽泉寺)
	豊白支院婦人会定例 休会		豊白支院支院婦人会定例 13:00~ 坂田智亮(札幌別院輪番)		豊白支院支院婦人会定例 13:00~ 曾我朋寛(北広島市 照道寺)
3日(金)	現来寺支院婦人会定例 休会	3日(月)	現来寺支院婦人会定例 同上	3日(月)	現来寺支院婦人会定例 13:00~ 宮本尊文(札幌市 顯淨寺)
4日(土)	北三条支院婦人会定例 休会	4日(火)	北三条支院婦人会定例 同上	4日(火)	北三条支院婦人会定例 同上
5日(日)	円山支院婦人会定例 休会	5日(水)	円山支院婦人会定例 同上	5日(水)	円山支院婦人会定例 同上
6日(月)	北支院婦人会定例 休会	6日(木)	北支院婦人会定例 同上	6日(木)	北支院婦人会定例 同上
8日(水)	開基現如上人御命日法要 13:30~ 本堂 渡辺晃仁(別院職員)	8日(土)	開基現如上人御命日法要 13:30~ 本堂 関 逸也(別院職員)	8日(土)	開基現如上人御命日法要 13:30~ 本堂 山本 超(別院職員)
				11日(火)	勿忘の鐘 14:46~ 鐘楼堂 法要 15:00頃~ 本堂 坂田智亮(札幌別院輪番)
12日(日)	大谷婦人会定例法座 13:00~ 本堂 坂田智亮(札幌別院輪番)	12日(水)	大谷婦人会定例法座 13:00~ 本堂 巖城孝明(札幌市 専修寺)	12日(水)	大谷婦人会定例法座 13:00~ 本堂 巖城孝明(札幌市 専修寺)
		15日(土)	親鸞講座 15:00~ 大谷ホール 小泉元瑞(江別市 瑞雲寺)	15日(土)	親鸞講座 15:00~ 大谷ホール 小泉元瑞(江別市 瑞雲寺)
				17日(月)	春季彼岸会法要 13:30~ 本堂 寺林彰則(豊浦町 教心寺)
18日(土)	親鸞講座 15:00~ 大谷ホール 小泉元瑞(江別市 瑞雲寺)			18日(火)	同上
				19日(水)	同上
				20日(木)	同上 鷺嶺彰宏 (北海道教区駐在教導)
27日(月)	宗祖親鸞聖人御命日法要 13:30~ 本堂 佐々木強(札幌市 栄光寺)	27日(木)	宗祖親鸞聖人御命日法要 13:30~ 本堂 須磨興人(札幌市 東興寺)	27日(木)	宗祖親鸞聖人御命日法要 13:30~ 本堂 酒井 智(南富良野町 恵光寺)
28日(火)	同上	28日(金)	同上	28日(金)	同上

## 勿忘の鐘



- ◆日にち 3月11日(火)
- ◆時間 14:46~
- ◆場所 鐘楼堂
- ◆法要 15:00頃 本堂
- ◆法話 輪番 坂田智亮

## 春季彼岸会法要

- ◆日にち 3月17日(月)~20日(木)
- ◆時間 全日 13:30~
- ◆場所 本堂
- ◆講師 17日~19日  
寺林彰則(豊浦町 教心寺)  
20日  
鷺嶺彰宏(北海道教区駐在教導)



## おあさじ

朝6時30分から  
毎日となたでもお参りいただけます

## 無量寿の会

札幌別院にて毎月2回13時から  
お寺で俳句を読んでいます  
講師 荒船青嶺先生に教わります

### 札幌別院機関紙 令和7年1月掲載句

笑ひ合ひ家族団欒お元日	安藤晃寿
和やかに膳に揃ひて御元日	澤田勢津子
万物の生命破魔矢に願ひけり	阿波幸
直筆や人柄見える年賀状	三浦伸子
支へられ支へて二人去年今年	齊藤和加

## 永代経

尊い浄財を賜りました。ここに披露申し上げます。

○永代経  
【本院】

宮田	千重子	様	中央区
星野	紀子	様	中央区
高木	哲司	様	南区
大島	恵子	様	中央区
高田	昭子	様	中央区
塚田	律子	様	中央区
梶浦	喬	様	埼玉県

【豊白支院】

薦保	江美子	様	苫小牧市
細川	幸江	様	豊平区
水谷	瑛子	様	白石区

## 団体参拝

お参りいただきありがとうございました。  
11月18日  
札幌市生涯学習センターちえりあ 様  
12月6日  
NPO法人シーズネット 様



## 表紙紹介

Title 飛翔 / Photo 菊池 恵子

## テレホン法話

(011)511-1313

1月前半	日をたのむ、人をたのむ	多田 一也
1月後半	人間の証	竹内 順導
2月前半	共に生きる	伊藤 篤
2月後半	私の落ち付く場所	西田 柁司

『つきあかり 東別院テレホン法話集』より

## 編集後記

タクシーに乗っていると、座席に付けられた画面に様々な広告映像が流れてくる。今では当たり前であるが、かつてはせいぜい運転手さんの名刺くらいであった。技術の進歩によっていつでもどこでも情報が目に飛び込んでくるのが現代だ。新聞・テレビ・ラジオという媒体からインターネットへと変わり、目になじむものが一変した。機関紙も長らくタブロイド版で発行してきたが、日常的に触れるものが変わった以上、こちらも順応していかなければならない。表紙のデザイン、タイトル、字体で読み手の意欲をそそらなければ、冊子を手にとってもらうことすら難しいのである。

かつて編集を手伝ってくれた元新聞記者の方に「1枚の写真は1000文字に匹敵する」と教えられたが、今ではそれも写真から動画へと置き換えられたように感じる。

機関紙も時代に合った形を模索し、今号からリニューアルしてお届けする。(月)



<https://ohigashi-sapporo.jp>



## 東本願寺 札幌別院

〒064-0807 札幌市中央区南7条西8丁目290  
TEL.011-511-0502  
E-mail. ohigashi@abeam.ocn.ne.jp

地下鉄南北線「すすきの」駅で下車  
→市電外回り「東本願寺前」徒歩1分

WEBは▶  
こちらから

